



ネパールについて知ろう

香川県鶴尾中学校 担当教科：学活・総合

久保 賢吾

◆実践教科：総合・道徳 ◆時間数：2時間 ◆対象学年：中学1年生 ◆対象人数：30名

カリキュラム

◆実践の目的

- ・ネパールの文化や習慣について知り、日本との違いや共通点について考え、ネパールを始めとする諸外国に対して興味や関心を持つことができる。
- ・学校で学べることが当たり前ではなく、幸せであるということを再確認し、自分たちの生活を見つめ直す機会とする。

ココがすばらしい！

- ・生徒に伝えた「今回の話は私が見てきて感じたことで、ぜひあなた自身の目で見てください」という視点
- ・フォトランゲージの中にも先生自身が体験された写真が入っていることで生徒にとってネパールがぐっと近くに感じられる工夫がされた。

授業の構成（特別支援学級）

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	「ナマステ ネパールの文化や習慣」 ネパールの文化や習慣について知り、ネパールへの興味をもつ	①事前にとったアンケート（対象：鶴尾中1年生）の結果を知る ②ネパールの挨拶・国旗・帽子・お金の紹介を聞く ③グループでフォトランゲージ（10枚の写真）を行う ④感想を書く	・パワーポイント ・ネパールの写真 ・帽子（トピ） ・ネパールのお金（お札）
2	「ナマステ ネパールの学校」 ネパールの様々な学校について知り、自分たちの生活について振り返る	①ネパールの学校の様子について聞く ②ネパールの生活に欠かせない「籠」について知り、重さを体験する ③ネパールの代表的な飲み物「チャイ」を飲む ④感想を書く ⑤お土産のミサンガをえらぶ	・パワーポイント ・紅茶（チャイ） ・ミサンガ（お土産） ・米俵（籠の代わり）

授業の詳細

1限目 ナマステ！ネパールの文化や習慣

- (1) 事前（2009年7月）にとったアンケートの集計結果を見ながら、本校1年生の生徒が持っているネパールのイメージについて確認した。

〈アンケートの質問〉

- 1 ネパールという国を聞いたことがありますか？また、どこにありますか？
- 2 ネパールと聞いて何を思い浮かべますか？
- 3 日本人の主食はお米です。ネパールの人は何を食べると思いますか？
- 4 ネパールについて知りたいことは何ですか？

〈アンケートの結果〉

- 1 ネパールという国名については知っているものの、場所についてはほとんど生徒が知らなかった。
- 2 思い浮かべるもの
動物／山／黒人／砂漠／バナナ／貧しい国／土／サッカー／宝石／車がない国
- 3 食べるもの
パン／米／イモムシ／バナナ／うさぎ／玄米／豆／トウモロコシの粉

4 知りたいことは？

- ・一番きれいな山は？
- ・自然はいっぱいあるのか？
- ・宝石はきれいか？
- ・お金は何というのか？
- ・人口はどれくらいか？
- ・プールには入るのか？
- ・どんなスポーツが盛んか？
- ・何カ国語しゃべるのか？
- ・食生活や習慣などは？
- ・国の人慢は？
- ・学校の様子は？
- ・何がおいしいか？
- ・好物は何か？
- ・ネパールで一番高い山は？

(2) アンケートの結果を生徒といっしょに確認しながら、ネパールのことについて話をしていった。

(3) 教室に入る前に渡した写真について3人ずつのグループでフォトランゲージを行った。

「写真は何をしているところか」、「写真に写っているものは何か」、「写真から気づいたことは何か」などグループごとに紙に書いてもらつた。その後、意見をみんなの前で発表した。

発表のあと、教師の方でパワーポイントを使いながら、写真の解説をしていった。その際、関連のある写真についても紹介した。

生徒の反応

- ・屋台みたいな感じの店
- ・建物が古い
- ・野菜中心の店
- ・ゴーヤ、にんじん、オクラ、アスパラ、でっかいナス、エンドウ豆、瓜、パパイヤみたいな果物
- ・ばかり売り
- ・アスパラをわらで縛っている
- ・たくさんのバスがある

私は何をしているでしょう？



野菜を売っています。おもしろって言って遊びに行けます。

▲フォトランゲージで使った写真1▲

この写真は市場で野菜を量り売りしている様子である。この写真について解説したあと、ネパールの代表的な料理の「ダルバート」について紹介をした。日本では当たり前のようにお箸で食べるが、ネパールでは、手で食べることを言うと少し驚いた生徒もいた。教師が手で食べたときのことを話したり、ホームステイのときにネパールの人に食べてもらった「さぬきうどん」について紹介したりした。比べる視点は大切だと思った。



御礼に日本食を食べもらいました。
何でしょう？



さぬきうどん です

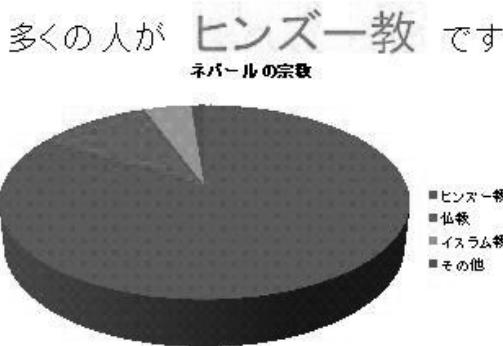
生徒の反応

- ・たくさんの階段
- ・お参りをしているみたい
- ・壁が赤い
- ・近くに寺みたいなものがある
- ・何か燃やしている
- ・くすんだりはげたりしているからたぶん古い建物
- ・小さなお堂



▲フォトランゲージで使った写真 2 ▲

一枚の写真から、生徒たちはいろいろ読み取ることができるものだと驚かされた。この写真は、ガンジス川の支流のパグマティ川にあるシヴァ神をまつるネパール最大のヒンズー教寺院である。ホームステイのホストファミリーに連れて行ってもらったときに撮影したものである。これ以外にも数枚この写真を使ってフォトランゲージを行った。火葬の写真を見て、このような写真を撮るのは不謹慎だという意見もあった。



水遊びをしている子どもたち



聖なる川はふところが大きいのか、あらゆるものを受け入れる。

ネパールはヒンズー教徒が多いが、仏教徒もいるらしいことや、多くの神様に守られていて、信仰心も篤いことを伝えた。また、人を火葬して遺灰を流した川で子どもたちが水遊びをしていることへの驚きも、私自身が感じたのと同じように大きかった。

輪廻転生を信じて墓を造らないヒンズー教徒の死生観は、生徒たちにも大きな問題提起となった気がした。

〈所感〉

普段の教科の授業では、眠たそうな生徒も興味をもって聞いてくれた。異文化についての興味はあるようで、日本文化との違いに気づき、比べながら話を聞いてくれていた。

ただ、興味のある生徒とそうでない生徒の差もあり、興味のある生徒にとっては少し物足りない授業であったかもしれないと反省させられた。また、十分に質問の時間がとれなかったことが少し残念であった。

▼ネパールの国旗を紹介▼



▼フォトランゲージの活動をしている生徒▼



12限目 ナマステ！ネパールの学校

まず、はじめに世界地図でネパールの位置について確認をした。その後、簡単なネパール語について「旅の指先会話帳」を使って「あなたの名前は何ですか」、「私の名前は○○です」とネパール語でお互いに近くの人と軽く会話をさせた。後から振り返ると、5人以上の人とお互いに自己紹介してきなさいという指示を出してもよかったかなと思った。

次に、ネパールで訪問した様々な学校についての紹介をパワーポイントで行った。

コンクリートの上に薄いじゅうたんを
しいて勉強しています。



少し暗いです。電気はありません。



4人の生徒が座ってぎゅうぎゅうで
勉強していました。



養護学校の生徒たちが
民族音楽を踊ってくれました



厳しい環境のもとで、一生懸命に学ぶことの喜びを感じながら勉強しているネパールの子どもたち。そんな子どもたちのがんばっている姿をパワーポイントで伝えていった。今、自分たちが学校で勉強できているのは、決して当たり前ではないということを知ってもらいたかった。

次に、ネパールでよく見かけた竹で編んだ籠を頭で運ぶ文化があることを伝えるために、はじめに写真を見せ、そのあと、20kgの米袋をかばんにつめて実際に体験をさせてみた。ネパールで実際に籠を頭で支えて運んだ体験を伝えることで、ネパールの人たちの労働の大変さと文化の違いを伝えた。

籠は便利よ。あなたもやってみる？



ちょっとそこまで買い物も行っていたの



10mは行きたいな。



ソファも頭でひっかけて運びます



次に、ネパールで飲んだチャイと呼ばれるミルクティを生徒に飲んでもらった。ネパールから持って帰った紅茶を使って作ったが、なかなかあの味は出せなかった。でも生徒はおいしいといって飲んでくれたのでよかったです。ぜひ、ネパールで飲んでほしいと伝えた。

最後に、1限目と2限目の授業を終えての感想を生徒に書いてもらった。以下がその感想である。

生徒の反応

- ・ネパールの勉強でネパールの生活や学校を見ました。学校は日本と違って、教室はとても小さくて、いすや机などもなく地べたに座っていて全然違うなと思いました。それに死んだ人は燃やして川に流すのを初めて知りました。日本は火葬場があってそこで燃やして、お墓に入れるので日本と違うなあとと思いました。もっと他の国も見てみたいと思いました。
- ・ネパールの人は電気がないところで勉強したり、コンクリートの上に座って勉強するのは大変だと思いました。それに校舎のない学校があるのがかわいそうでした。でも日本人人が協力して学校建設に力を貸しているのでよかったです。ネパールに行くことがあったら紅茶を飲んでみたいです。
- ・2回の話を聞いてぼくは貧富の差が激しいことがよくわかりました。教室も先生の人数が足りないことで、山の学校では黒板がすごく書きにくそうだし、消しにくそうでした。でもその中でネパールの人たちはみんな明るく生活していることがわかりました。英語も負けたくないです。
- ・ネパールの授業を通して、貧しい人が多いこと、重い荷物をもって運ぶことを知った。電気も無かったり先生も足りなかったり、洗濯機がないなど大変で、日本は逆に豊かなんだなあと思った。
- ・ネパールは私立の学校の方が立派でした。ほぼ日本と変わらんような気がしました。
- ・ネパールのことを学んで分かったことは日本と違って貧富の差が激しいと思いました。また、文化も違うなあとと思いました。でもその国にはその国の文化があるので素敵なものだとも思いました。
- ・ネパールの子どもたちは、お金がなくて働いているのでびっくりしました。とても日本は恵まれた国だということが分かりました。今でも自分たちは無駄なことをしているので、ネパールの人のように無駄のない生活をしたいです。
- ・日本とネパールは国旗も違うし、学校生活の様子は全然違っていて、日本の学校はとてもよい環境なんだと分かりました。私立の学校と山の学校とは貧富の差が激しいと思いました。パグマティ川は亡くなった人を燃やした人の骨が流れているのに、子どもたちは川で遊んでいたので死と隣り合わせなんだなあと感じました。
- ・日本と違うところがたくさんありました。例えば国旗の色、形や学校の環境が全く違うことが分かりました。でも一番違うなと思ったのが習慣でした。亡くなった人は焼いて聖なる川に流すということにすごく興味をそそられました。ミルクティもおいしかったです。

〈所感〉

養護学校を訪ねたときにダウン症の子どもたちがダンスを踊ってくれた。11月に本校の人権学習で知的障害者についての理解を深める学習を行った。その学習とも関連づけ、外国にもいる知的障害がある生徒のがんばりにも触れられたらよかったと感じた。

【成果と課題(全体を通して)】

今回の授業を通して私自身が感じて伝えた思いが、ネパールのことを知らない生徒たちにとっては全てになることへの責任の重さを感じた。そこで、授業の最後にここで紹介したネパール像は、あくまで私の視点であるので、生徒たちには大人になって機会を見つけて、是非ネパールに行ってほしいと伝えた。

今の中学生にとっての関心は、TVのこと、ゲームのこと、携帯電話のことである。なかなか、海外のこと今まで目が向かない。今回ネパールの授業をして、ネパールや諸外国に対して多少なりとも興味・関心をもってくれたことはうれしかった。しかし、時が経つと忘れてしまうだろう。JICAの出前講座などをお願いして、協力隊員の方々の話を聞かせる機会などもとり、継続して国際理解教育に取り組んでいくことが大切だと思う。また、ネパールの学校が英語に力を入れているのにも感服した。

仕事をしていくためには必要不可欠だということだったが、今の国際化時代、英語をツールとして世界中の人がものとつながっていくことが求められていると思う。

交通網やIT産業が進んだこの時代、日本という国だけにとどまらず、世界に目を向けさせる教育に挑戦していきたい。

参考資料

【書籍】

- ・地球の歩き方編集室編（2009）「地球の歩き方ネパール2009年～2010年版」ダイアモンド・ビッグ社
- ・野津浩仁著（2002）「旅の指さし会話帳25ネパール」情報センター出版